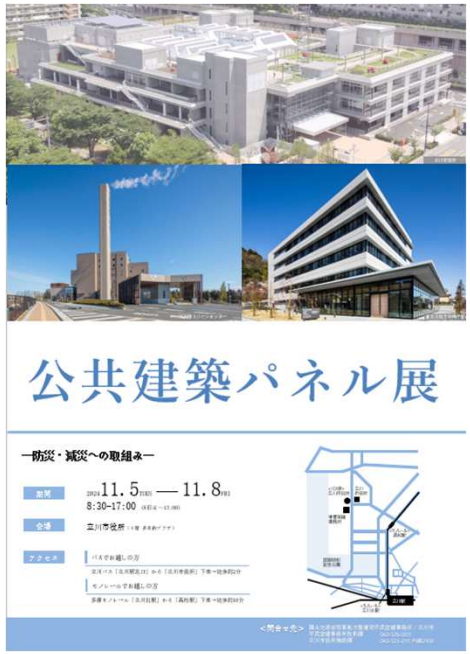
令和６年度　公共建築パネル展　―防災・減災への取組み―　開催報告

公共建築パネル展の概要

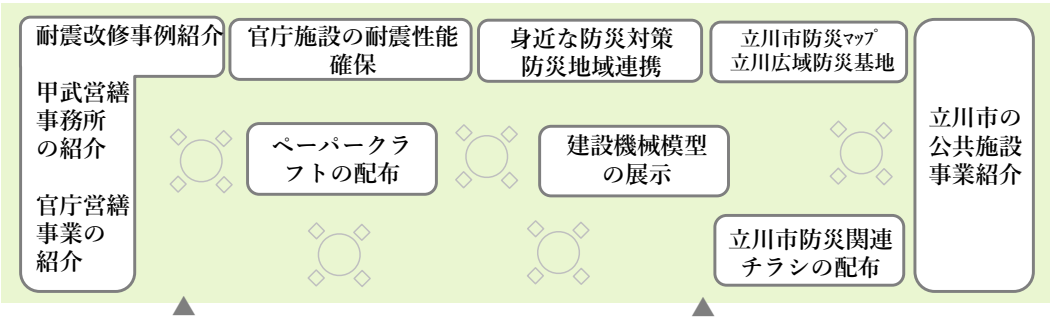
令和６年１月１日に発生した能登半島地震においては、様々な施設が被災し、公共建築においても一時的に使用出来ない状況が生じました。
改めて建築物の耐震性確保の重要性が認識された中で、公共建築における耐震性能確保、浸水・津波対策事例等のパネル展示を通じて、安心・安全な施設整備の取組みに理解を深めて頂くことを目的とし、甲武営繕事務所、立川市共同で『防災・減災への取組み』をテーマとして公共建築パネル展を開催しました。

日時：2024年11月5日（火）～8日（金）
場所：立川市役所　1階多目的プラザ

開催案内ポスター



展示レイアウト



会場の様子

官庁施設の耐震性能確保

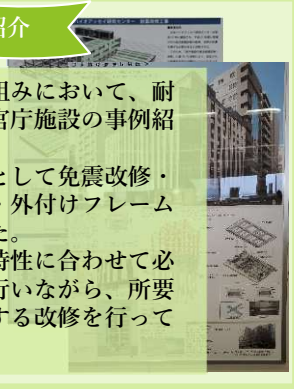
官庁施設の耐震性能確保の取組み紹介を行いました。
官庁施設の多くは、地震災害時に、応急復旧、復旧・復興等の地震防災機能を発揮することが期待されます。
そのためには、施設の構造体、建築非構造部材、建築設備について、一般の施設に比べて耐震安全性を十分に確保する必要があります。

浸水対策・津波対策

官庁施設における浸水対策・津波対策の取組み紹介を行いました。
激甚化・頻発化する災害により全国で大きな被害が発生していることを踏まえ、官庁施設の執務スペースや電力・給排水等の基幹設備機能など、施設機能の確保を的確に図る必要があります。

耐震改修事例の紹介

耐震性能確保の取組みにおいて、耐震改修を実施した官庁施設の事例紹介を行いました。
主な耐震改修工法として免震改修・耐震ブレース補強・外付けフレーム補強を展示しました。
それぞれの施設の特性に合わせて必要な機能の確保を行いながら、所要の耐震性能を確保する改修を行っています



立川市の取組み紹介

立川市役所や新清掃工場が保有する防災機能について、紹介を行いました。
また、市内の避難施設などを改めて確認頂く機会として、防災マップの掲示や防災関連のチラシを配布しました。